

昭和48年度

定期総会開かる

飯田高校同窓会報

八月十九日(日)午後一時より新館会議室において本年度定期総会が開催された。

先づ例により開会の冒頭に物故会員三十四名への黙禱を捧げて始まる。松下逸雄副会長(中



中島会長

37)の開会の辞、中島賢二郎会長(中17)の挨拶、新校長吉沢順氏の挨拶があつて議事に入る。会務報告の中で特に校庭拡張問題について

第六号
発行所 長野県飯田高等学校同窓会
編集発行人 宮内道明
印刷所 飯田共同印刷

会長 中島賢二郎(中17)
副会長 松下逸雄(中37)
北原明治(中23)
長坂好忠(中41)
横田盛広(中3)
監事 外松諄(中39)
市瀬泰久(中2)
原勝一(中44)
尚退任になった前副会長



横田副会長



長坂副会長



北原副会長



松下副会長

維持会費

納入に御協力を

現況(四十八年十月末現在)ことを考えると、此の際、本年度納入者 一、七六二名
四十八年度迄の完納者 二、〇六六名
四十九年度迄の完納者 一、一五七名
右の数字から言えることは、本年度納入者の殆どが完納者であり納入者が固定化したといえる。しかもその割合が全会員(住所判明者)約一万一千名に対して僅か二割近いものであるといふことを考えると、これらの方々の何年分かの前納によって今年まで運営出来て来たのであり、来年度の

松沢太郎氏(中29)には會長より顧問の推薦があり、前監事丸山昌寿氏(中23)、奥村幸三氏(中35)、会計の小塩祿郎氏(中12)に慰勞の辞があり、小塩氏が代表して退任の挨拶を述べ、又新任四名の挨拶があつた。尚ラグビー部二十五周年記念祭が八月十五日に催された
ことについて代表者から報告の挨拶とお礼があつた。野原弘氏(中24)の音頭で校歌斉唱、顧問林緑氏(中27)の音頭で万才三唱、松沢副会長の退任挨拶を加えての閉会の辞で午後二時二十分第一部を終り、引続き記念講演に移る。
(講演記事別掲)



講師紹介

講師 田中正明氏
世界連邦建設同盟日本事務局長 中29回卒業

氏は中学五年生の時、松本高校での県下弁論大会に飯中代表として参加した時の演題が「太平洋時代来る」で、今日なお、雀百までおどりを続けていると、講演の冒頭で話されている。

世界最強の軍事力とすぐれた科学的知能、同時に豊かな物資を持つアメリカが一九六五年二月北爆を開始して以来足かけ九年間にわたり最高六〇万人に近い兵力を投入し、原子爆弾を除くあらゆる科学戦術を用いて戦い、そして敗れて撤退を余儀なくされた。これが今度のベトナム戦争である。

(中略)

バスコダガマがアジアを発見して以来、西欧帝国主義のアジア、アフリカの侵略は、まさに火の如く、而も四百年の長きに亘って続いて来た。英国の歴史学者トインビーは言っている。「白色人種はインドやアフリカの黒人や黄色人種を、人間としてではなくて、動物として見て来た」と。

昭和48年同窓会定期総会記念講演

ベトナム以後の
アジアと日本

ていなかったから、背筋が寒くなるような非人間的、非人道的な侵略政策が公然と堂々と進められてきた。この侵略行為が挫折したのが日露戦争であり、アジア解放の第一ラウンドである。一六〇〇年といえば、関ヶ

原合戦の年であるが、イギリスがインド征服の一布告として東印度会社を設立した年である。一八五八年にはインド統治法によってインドの大権は全くイギリスの主権に移った。このようにして、フランス、ロシア

或はオランダ、アメリカなどの帝国主義の力がアジアに伸び、朝鮮にまで及び、明治の日本が危いという時に、人口三千万の名も知られなかった日本が、世界最強のロシア帝国と戦い、結果は日本が勝ち、ロシアが負けた。四百年間続いた侵略戦争の歴史が挫折した。そしてアジアの人々がはじめて目覚めた。日露戦争の世界史的意義がここにある。

インド首相ネルーは自叙伝の中で、日本がロシアに勝った時の喜びと感激を述べており、パール博士は、提灯行列をして白人達の前を肩を張って歩いた誇りを話している。中国革命の孫文の基地は東京と横浜であり、ビルマのオッタマもベトナムのコンディも日本に亡命して日本の援助で独立運動を起こした。中央アジアへ行った日本探険隊は民家で明治天皇の写真を発見し、乃木とか黒木の名の道路があるのを見つけている。又、フィリッピンの子は友人ラマス氏の二人の息子は乃木と東郷である。アジアにおける独立運動、自由運動のおこりは日露戦争にあることはこの他にもまだある。

はしない。今日からは大西洋に面したアメリカではなしに太平洋に面するアメリカである」と言っており、その四ヶ月後には太平洋艦隊がで、排日運動から更にワシントン会議、ロンドン会議での建艦競争、山東半島の租借権返還、満蒙における特殊権益の放棄等、米国のこの横暴は、第一次大戦後の世界の覇権がアメリカにあったことを物語るが、こうした情勢の中で起こってくるのが大東亜戦争である。

「真珠湾攻撃は奇襲にあらず強襲である」と米国の事件審査委員会が発表していることであり、開戦責任者は日本でなくて米國であることが明らかにされている。米國の仕組んだオリ作戦であった。日本は敗れたが、アジア・アフリカで五十余國が独立したという事実は見のがせない。「アジアにおける十九世紀的構造を破壊したことであり、西欧帝国主義の終焉を告げるものであり、日本が敗退したことに劣らぬ歴史的事実である」と、歴史学者は言っている。

全な敗北という見方をした。四百年の西欧優位、白人優位の歴史が狂って来た。第一が日露戦争、第二が大東亜戦争、第三がベトナム戦争、この三つは共に、アジア人や黒人が人間であるという存在を明らかにした戦いである。

日本が第一次大戦後のパリの平和会議に臨んで求めた、たった一つの要求、「人種は平等だということはどこでもよいから入れてほしい。」が認められなかった。アメリカ独立宣言にある自由、平等は、自明の真理とうたってあるが、それは白色人種の中だけの真理であったのである。それが一九四八年の世界人権宣言ではじめて認めさせること

とが出来たのである。このような歴史の転換期に来た日本は如何にあるべきか。今日の日本には国家目標もないし、諸民族の信頼を得るようなものを打ち出しでもおらない。むしろエコノミックアニマルという嘲笑的な眼を向けられているのみである。ヨーロッパ共同体(EEC)は経済共同体から政治統合してECとなった。米、ソ連、中国、ECに日本を加えて五極時代、或は多極時代が来たといわれるが、更に一步を進めて世界共同体、私共のいう世界連邦の時代がやって来る。

今や人類共同の敵は核兵器ではなくて、地球の資源枯渇の問題、環境汚染の問題である。世界人口の増加は毎年〇・九%といわれ、地球上の資源がいつかは尽きるといえる。或る学者が一九六八年に、二五年後には太平洋の魚が二分の一に減ると予言して笑われたが、五年後の今日、これを笑う人が居るだろうか。科学の進歩と人間の幸福が比例していた時代は既に過ぎた。科学は人類を滅ぼす途と知った今こそ、世界の人類は東洋の精神文明を考え直してみる必要がある。

(文責 編集者)
枯渇の問題、環境汚染の問題である。世界人口の増加は毎年〇・九%といわれ、地球上の資源がいつかは尽きるといえる。或る学者が一九六八年に、二五年後には太平洋の魚が二分の一に減ると予言して笑われたが、五年後の今日、これを笑う人が居るだろうか。科学の進歩と人間の幸福が比例していた時代は既に過ぎた。科学は人類を滅ぼす途と知った今こそ、世界の人類は東洋の精神文明を考え直してみる必要がある。

(紙面の都合で概要と
なったことをおわび
します。)

南十字星は飯田の星とは
いえませんが、永遠に光
を放ち、あこがれの星であ
る。この星は真理と文化を
象徴し理念を求めて学問す
る学徒の道しるべと考えた
のです。又飯田高校(当時
は飯田高松高校)が今後ま
すます地方の文化をになう
中心的な存在であり、そう
いう人物を送り出してほし
い。伝統ある学校が、今後
ますます発展してほしいと
いう気持で図案化した記憶が
ございます。
と語られた。
(現在 神奈川県教育委員
会指導主事)

校章の由来



高校になってからの現在の校章についてその由来を作者飛矢崎美利氏(高2)にお聞きした。
稲穂と南十字星のデザインについて。

稲穂は、
旧制中学時代のそれを生かしたのだが、私としては南信地方の肥沃な土地に豊かに実る稲穂と共に、人間の味の豊かさ、これが飯田地方の文化を含めた生活の安定さを象徴すると考えて、これまで伝統を保って来た校章を土台として残そうと思っ

卒業五十周年記念祭の記

中学二十二回 大沢和夫

◎昭和四十八年八月二六日
午後一時続々と集って来ました。「やあ」と言っても「誰だったかなあ」という返事もありません。やがて久しぶりだったなあと手を握りあう光景もありました。二時ややすぎより大雄寺石川良昱住職(中42回)の読経により慰霊供養がはじまりました。読経、焼香(恩師、遺族、会員)主催者の挨拶

で式は終り、一同で記念撮影を行ないました。亡くなった三十二名の友人の名を全部あげた住職の読経には、白線一本の帽子をかぶり下駄で通った飯田中学時代の友人のおもかげが次々に思い出されました。当日出席の遺族は、青山さち・伊原寿美子・内田三子・北沢正志・後沢靖子・佐藤みつ・塩沢敏江・館

野洪道・宮内博司の方々でした。記念品と花をお渡ししてお別れしました。四時ごろ、歩いたり車に乗りたりして一同長姫高校の門前に集りました。吾々五ヶ年通ったなつかしい所棟の瓦に「中学」とはつきり記されております。玄関前を歩き、古い校舎や大きい桜の木(今は長野県天然記

念物となっている)や、中庭あたりに若い日を偲びました。五時すぎより三宜亭で、恩師をかこんで懇親会。その前に相談があり、卒業五十年記念として母校へ何か寄附すること。記念誌を作ること。それをききました。それから一杯、又一杯、談話、朗読。八十五才の平田先生のご挨拶の声の張りのあつたこと、木下春雄先生の祝の謡、木下祐次先生の万才三唱、いずれもお元気でたのもしく思いました。「赤石山は嶺々として」をうたって七時半、再会を約しながら解散しました。

昭和47年度 飯田高校同窓会決算書

収入額	3,483,351		
支出額	1,756,759		
差引残額	1,726,592	(内1,500,000円積立金、226,592円繰越金)	
収入の部			
前年度繰越金	318,228	(内120,000円電債)	
入会金	369,000		
維持会費	2,755,650		
雑収入	40,473	(利子、寄附)	
合計	3,483,351		
支出の部			
人件費	542,500	印刷費	284,000
アルバイト	23,000	旅費	9,750
事務費	28,450	雑費	126,087
会費	30,490	作品蒐集費	5,310
会議費	177,460	積立金	120,000
通信費	409,512		(電算)
合計	1,756,759		

会計監査 昭和48年7月9日
丸山昌寿 奥村幸三

昭和48年度飯田高校同窓会予算書

収入額	2,351,592		
支出額	2,351,592		
差引残額	0		
収入の部			
入会金	360,000		
維持会費	1,750,000		
繰越金	226,592		
雑収入	15,000		
合計	2,351,592		
支出の部			
人件費	665,000	(内 専任給与 620,000 アルバイト料45,000)	
事務費	40,000		
会費	42,000		
会議費	225,000	(内 総会 105,000 幹事・評議員 65,000 役員・監査会 15,000 支部補助 40,000)	
通信費	450,000		
印刷料	305,000		
室費	30,000		
費	40,000		
立備費	205,000	(内 浪人教室 100,000 振替手数料 65,000 その他 40,000)	
金費	300,000		
費計	49,592		
合計	2,351,592		

歴史を尋ねる



(明治36年頃)

会報五号「歴史をたづねる」欄に対して早速便りを寄せ下さったのを掲げ、

尚、御記憶の一端を続々と寄せ下さるようお願いいたします。

飯田同志社のこと

前沢織衛(中4回生)が始めたのは、小生が中学一年の末だか二年生のはじめだと思えます。

註(明治三十三年か三十四年ということになる。ちなみに第一回生が明治三十五年三月卒業している)。

場所、はじめは上郷の別府と飯田町との中途に堤がありましたが、その堤の下に藪の倉庫があり、それが空いておったから、それを借りて自炊しました。

その後、当時の中学校の直ぐ前(追手町二の丸)に二階家があり、そこを借りて移転した。

。趣味を同じうする集団とでも申しましようか、そうさまたたわけてはありませんが主として野球とか庭球

とか野外運動に興味を持った人が多かったように思います。

。社員の数は小生四年の頃は全部で百名内外、自炊部二十名内外と記憶しております。(註 前沢氏卒業時の写真には一年生二五名、二年生三四名、三年生二〇名、四年生九名、五年生七名、計九五名に教官が三名並んでいる)

。行事は一年に二・三回全員会合を開き学校から先生に来てもらい話をしてもらった。当時松本中学校に良友会というのがあり、それと連絡をとり往來していた。

。小生卒業後三・四年は時々尋ねて行ったが、その後は一向不明です。

~~~~~

### 寄贈品紹介

著書 古橋和夫氏(中29回)「仙路」(四八・一〇・一五)  
著書 米山達雄氏(中36回)「網に関するノート」(四八・一一・一二)

### 編集後記

本年度第二回目の会報、二回の発行が出来たのも同窓会各位のご熱意と感謝しております。

支部の活動が活発になってきました。各地区で支部結成をお願いすると同時に、その記事などまた昔の思い出話、近況など、事務局宛送っていただければ幸いです。

皆様の今後一層ご活躍を祈っております。